

## Deletion status of p16 in effusion smear preparation correlates with that of underlying malignant pleural mesothelioma tissue

樋田, 知之

<https://hdl.handle.net/2324/1806882>

---

出版情報 : 九州大学, 2016, 博士 (医学), 課程博士  
バージョン :

権利関係 : © 2015 The Authors. This is an open access article under the terms of the Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivs License

(別紙様式2)

氏名	樋田 知之			
論文名	Deletion status of <i>p16</i> in effusion smear preparation correlates with that of underlying malignant pleural mesothelioma tissue			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	中西 洋一
	副査	九州大学	教授	赤司 浩一
	副査	九州大学	教授	續 輝久

### 論文審査の結果の要旨

悪性胸膜中皮腫の診断において、良性中皮増殖を形態学的に鑑別することはしばしば困難である。近年、悪性の指標としてFISHによるp16遺伝子のホモ接合性欠失の検出が有用とされ、これらの鑑別における感度は60～70%、特異度は現在のところ100%と報告されている。ただし組織学的に深部組織への中皮腫細胞の浸潤を確認することが必要とされており、これが確認できない胸水細胞診での確定診断は現状では困難である。胸水中の中皮腫細胞と、中皮腫組織におけるp16欠失状態の相関が示されれば、中皮腫の初期所見である胸水より確定診断に至る一つの根拠となりうる。

本研究では胸水、組織の両方が利用可能であった悪性胸膜中皮腫20例を用いて、両者でp16遺伝子欠失状態を検討した。その結果、申請者らは測定したp16遺伝子欠失状態が胸水と組織で一致し、欠失割合が相関することを示した。これは胸水検体を用いた悪性胸膜中皮腫の早期診断の可能性を示唆するものであり、胸膜中皮腫の良悪性鑑別にあらたな知見を加えた意義ある研究と考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。